

●第81回日本生理学会大会報告

当番幹事：日本生理学会北海道地方会

青木 藩，當瀬 規嗣（札幌医大・医学部）

本間 研一，福島 菊郎（北大大学院医学研究科）

札幌での大会は昭和49年（1974年）の第51回大会（北大，伊藤・藤森・中村・望月当番幹事）以来30年振りとなりました。大会開催を引き受けるに当たり，従来の当番校方式でなく北海道生理地方会として二大学の4人の当番幹事が役割分担（青木（総務），本間（プログラム委員長），福島（広報），當瀬（財務））し，準備を進めました。それにより地方会の多くの会員にプログラム委員会，会場運営などに加わってもらい，地方会の活性化を促すねらいもありました。

会期は前回の札幌大会と同じく，札幌の最もよい季節である6月を選び，6月2～4日の3日間としました。また会場は丁度前年竣工した最新の施設である札幌コンベンションセンターに設定しました。

今大会を振り返り，いくつかの項目にまとめて報告致します。

1. 大会参加者数

事前登録者数：1,359名

当日参加者数：226名

参加者総数：1,585名

（内 学生参加者数324名（事前登録分）；外国人登録者数206名）

参加者総数は前年の福岡大会を少し下回ったものの，生理学会単独の大会としては例年のレベルに達していた。予想以上に外国人参加者が多く，大会の国際学会化が進んでいることがわかった。

2. 今大会での新しい試み

1) 大会プログラム集の発行

演題・発表者名・所属を日英表記したプログラム集を大会2週間前に事前登録者，非会員の講演

者・シンポジスト・オーガナイザー（1,351名）宛に配布した。

2) 英文抄録集（JJP Suppl）の発行

従来の子稿集は廃止し，英文抄録集（UMINオンライン登録演題）が大会前にJJP編集部より全会員に配布された。

3) 英文抄録のUMIN上での公開

広報委員会の要望にしたがい大会終了後，英文抄録をUMIN上で公開した。

3. 発表演題数

特別講演：1題

教育講演：9題

シンポジウム：183題（41タイトル）

ポスター：731題

合計：924題

（UMIN未登録の日韓シンポジウム6題も含む）

発表形式は講演・シンポジウムと一般演題（ポスター発表）の2種類とした。講演には特別講演の他に教育講演を設け，またシンポジウムは学会指定シンポジウム（IUPS関連シンポジウム他），関連学会との学会連携シンポジウムおよび公募シンポジウムを企画した。

その他，ランチョンセミナー6題，およびサテライト企画として大会最終日に一般市民向けの市民公開講座を開催した。

4. 大会参加費

参加費にはIUPS関連シンポジウムのための経費分（1,000円）を含め，正会員10,000円（事前登録），非会員12,000円（事前登録）とした。

別に学生会員については大学院生と学部学生の参加費をそれぞれ3,000円，1,000円とした。

また、非会員の講演者とシンポジストについては参加費を無料とした。

参加費の設定については従来、当番幹事に一任されていたが、学術研究委員会の提案に沿って、今大会では正会員9,000円の参加費にIUPS関連シンポジウムの経費分として1,000円を上乗せして10,000円とした。学生会員についても参加費を安くし、若手層の参加者数の増加をはかるという方針に従い安くした。

5. 大会経費

収 入 2,950万円

(内 訳) 参加費1,200万円、大会収入（機器展示・広告・ランチオン等）1,100万円
生理学会助成100万円、寄附及び自治体・財団助成等550万円

支 出 2,650万円

(内 訳) 会場費550万円、大会運営費（機材

費・人件費等）1,500万円

IUPS関連シンポ支援130万円、大会プログラム集170万円

その他（会議費・招請費・通信費・事務局費等）300万円

余剰金300万円をIUPS開催積立金として生理学会に寄附した。

3日間という短期間ではありましたが、好天にも恵まれ、連日各会場では日頃の研究成果の発表と共に熱心な討論が交わされました。大会中は運営も予想以上にスムーズに運び、当番幹事一同安堵し、大会を成功裏に完遂できた喜びで一杯です。

最後に大会運営を担当したJTBコンベンション企画センター、またご協賛頂いた（社）東京医薬品工業協会、（社）大阪医薬品協会、機器展示出展各企業、ご援助頂いた企業、個人の皆様に厚く御礼申し上げます。



第81回 日本生理学会大会 平成16年6月2日~4日 於 札幌コンベンションセンター